

## ～旧約聖書を読んで感じること～ (96) アッシリアを退けた王 ヒゼキヤ

ヒゼキヤはBC716年にユダの王となりました。その6年前、BC722年、父アハズと共にアッシリアの王シャルマナサルによる北イスラエルの滅亡の様を目の当たりにしました。父アハズはアッシリアに貢物を収め、アッシリアの信仰を取り入れ、圧迫を辛うじて避けていましたが、ヒゼキヤは父とは全く違いました。彼は、父祖ダビデが行ったように、主の目にかなう正しいことをことごとく行い、聖なる高台を取り除き、石柱を打ち壊し、アシェラ像を切り倒し、モーセの造った青銅の蛇を打ち砕いた。…彼はイスラエルの神、主に依り頼んだ。その後ユダのすべての王の中で彼のような王はなく、また彼の前にもなかった。彼は主を固く信頼し、主に背いて離れ去ることなく、主がモーセに授けられた戒めを守った。(列王下 18:3-6)

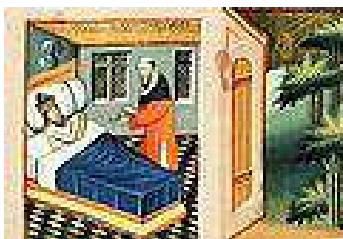


ヒゼキヤは信仰に立ち、神殿改革から始め、祭司の勤め、安息日、その他、廃れていた過越祭を復活させ、奉納を勧め、民の心を主に向けさせました。(歴下 30:1)

預言者イザヤを篤く信頼していました。さらに、インフラ面で防衛を固めました。まず、水は死活問題ですが、エルサレムの水源は城壁の外にありますから、530mの長さの地下トンネルを作り、シロアムの池まで、水を引きました。(列王下 20:20) また、城壁を堅固に幅広く増強し、これらは現在発掘されて見ることが出来ます。

ヒゼキヤのトンネル アッシリアの王に刃向い、服従しませんでした。アッシリアの新王センナケリブが攻め入って来て、ユダの砦の町はことごとく占領されてしまいました。この時、ヒゼキヤは、ラキシュにいるアッシリアの王に人を遣わし、「わたしは過ちを犯しました。どうかわたしのところから引き揚げてください。わたしは何を課せられても、御意向に沿う覚悟をしています」と言わせた。アッシリアの王はユダの王ヒゼキヤに銀三百キカルと金三十キカルを課した。(列王下 18:14)

金銀の宝物も貢ぎ、父と同様、身を低くせざるを得ませんでした。その時、アッシリアの將軍ラブ・シャケが勝ち誇ってイスラエルの神を冒瀆し、その神に従う民を軽蔑し、「サマリヤを神が救ったというのか？ ヒゼキヤに騙されるな」と降伏を勧めます。ヒゼキヤは苦しみ、悲しみ、神殿で祈りました。また、預言者イザヤに頼むと、イザヤは「主はこの都を守り抜いて救う」と託宣をします。彼らは天に助けを求めて、叫んで祈りました。その夜、主の御使いが現れ、アッシリアの陣営を撃ち、朝、皆死体となっていた(列王下 19:35)との不思議な結果となり、センナケリブは帰還せざるを得ませんでした。疫病だったのでしょうか。その後、アッシリアも衰退し、バビロンから圧迫を受けるようになりました。



ヒゼキヤを訪ねるイザヤ

Otto van Moerdrecht

アッシリアを追い払ったヒゼキヤは病に倒れました。イザヤはヒゼキヤが死ぬ病であるため、家族に遺言を残すように勧めました。その時、

ヒゼキヤは顔を壁に向けて、主にこう祈った。「ああ、主よ、わたしがまことを尽くし、ひたむきな心をもって御前を歩み、御目にかなう善いことを行ってきたことを思い起こしてください。」こう言って、ヒゼキヤは涙を流して大いに泣いた。(列王下 20:3)私はこの箇所を読んだ時、ヒゼキヤに病に苦しむ、

ひとりの弱い人間の姿を見て、激しく心を揺さぶられました。顔を壁に向け涙を流し、弁解し、弱さをさらけだし、助けを求めて祈らずにいられない信仰者の姿は、私たちと共通するものです。ヒゼキヤの呻きの祈りは神に聞かれて、癒されることになりました。その約束の印として、イザヤは日時計の影を10度進めるか、後戻りさせるか選べといます。ヒゼキヤは進めるのは容易く、後戻りは難しいから、難しい方を選ぶと言います。そしてヒゼキヤは癒されました。不思議な印ですが、ヒゼキヤは苦しむ時間を持つことを自らに課したと私は理解します。

ヒゼキヤは晩年、台頭してくるバビロンに再び身をかがめねばなりませんでした。子のマナセは父の信仰を継承できず、バビロンに捕虜とされ、苦悩の中で主に立ち返った時、帰国が叶いました。